藤沢
エコネット

２０２０年７月１日
第３１４号

藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

主な記事
- 2019 年度活動報告
- 20 年度活動計画
- 新型コロナの現状　・放射能測定値

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局　e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ　0466－87－4922

平和への登山口はひとつではない

生まれてからずうっと、戦争の中で育ってきた私にとっては、「戦争がないことが平和」という単純自明なことしか解らなかった。

何年も前、ＰＴＡ活動の中で「母と女教師の会」の先生方と「平和教育に関する話し合いがあり「差別」ということが戦争と根を同じくする問題であることを学び、戦争が含む複雑さを改めて感ずるようになった。一口に「平和を求める」といっても、その山に登るためには登山口があると思う。

私が考える平和への道を阻害しているものを、今思いつくままに揚げてみる。「競争社会」「効率主義」「利潤追求」「他の国べっ視」「自分の国さえ良ければいいという自国中心主義」「自国以外の基準・文化への敵視」「核の抑止力によって平和を守るという事」「その結果の軍拡競争」「過度の愛国心」。それらによってお互い疑心暗鬼となり、一触即発の危機を招いてしまうのだと思う。

こういう時私はどうするか。私はいつも自分の身辺からしか発想できないのだが、市民同士話し合うことだと思う。相手の意見に敬意を払いつつ、自分の意見を臆することなく述べる。なるべく感情的にならず、平明に、お互い諒解できる点を探り合う。客観的な討論の広場だ。そうやって普遍的なものに近づいて行く。――それがきっと正義に近づいて行くことではないかしら…。

今、アメリカでは警官の一黒人虐殺に対して抗議の運動が各地で拡がっている。参加者の一人が言う「これは黒人と白人との平等問題ではなく、人権問題です。我々は正義が欲しいのです」。
この正義と平和を求める市民の運動に対し彼らの大統領は「州で沈静できないのならアメリカ軍隊を出動させる」と云う。これは１つの国の中での戦争だ。世界中の市民がアメリカ市民と連帯して行動すればそれこそ戦争は、国と国との闘いでなく、支配するものと市民の横断的な闘いになる。敵はもしかすると、他国ではなく自分の国の中にいるのかも知れない。（ふじさわ９条の会　飯田玲子）

アジサイ　遊行寺の境内にて

藤沢エコネットの総会

６月６日に zoom によるオンラインで行われました。初めての試みでしたが、時間通りに開催でき、議案どおり採択されましたので報告いたします。

2019 年度活動報告（2019.5～2020.4）

★2019 年度の前半は、気候危機を誰もが予感する 40℃を超すような猛暑の夏、そして次々に襲う大型台風、阿武隈川流域等多くの河川が決壊し、南太平洋の海水温は 32℃を示した。もう戻れない臨界点であるティッピングポイントに近づいている。気候非常事態宣言は今や英仏など世界の国々、何千もの自治体に広がり、’20 年２月は鎌倉市に続き、神奈川県が宣言をおこなった。スウェーデンの 16 才のグレタ・トウンベリさんの訴えを、真に受け止めなければならない。パリ協定の温暖化ガス実質ゼロ 2050 年までをめざし、省エネ、再生可能エネルギーが求められる。藤沢市エネルギー計画は CO2 を 2022 年までに 90 年度比 40%削減の目標で 2016 年度までに 24.6%削減した。早急に非常事態宣言をし、抜本的な施策を立てることが求められる。

藤沢エコネットは、気候危機を考える学習会を連続実施して分析、若者を交えて行動することを探った。

★12 月、中国湖北省武漢市に発生したコウモリ由来の新型コロナウイルス肺炎感染症は、瞬く間に世界中に広がりパンデミックとなった。日本には 1 月中旬武漢から帰国した神奈川県人が初めて確認され、その後全国に広がり、３月末に 2900 人感染 77 人死亡、３月２日からは小中高休校、４月７日から５月 25 日まで約 50 日、新型コロナ緊急事態宣言が全国に発出され、外出自粛、密閉密集密接の３密となる行事、営業など食料品を除いて全て自粛となった。5月末約 1 万7600 人感染、911 人死亡、藤沢では６０人感染１人死亡（県 HP）、世界全体では約 ６０８万人感染、約 ３７万人死亡し、依然猛威をふるっている。日本は死者が少ないが、補償のわずかな休業要請、ステイホーム要請で、倒産業者や失業者など続出し、世界中で格差が広がり、社会不安になっている。

藤沢エコネットは新型コロナ問題を３回連続してニュースで取りあげ、協力を訴え、現状を伝えた。

★協力する武田問題対策連絡会は、湘南アイパーク（武田薬品工業株式会社）の遺伝子組換え実験の安全操業を求め、見守りを続けている。コロナウイルスが武漢ウイルス研究所から漏れたという疑いもあり、ウイルス実験の安全性確保はバイオハザードを防ぐため非常に重要である。

対策連絡会は最近の組織・経営について、また集中滅菌方式撤去について市を通し質問をおこなった。

★原発ゼロだった約２年間の後、2015 年に九州電力川内原発が再稼働、現在９基（停止中 4 基）が稼働している。原発輸出はすべて頓挫、原発ゼロ法案が上程され 1 日も早い原発ゼロ政策を実現する必要がある。

★東日本大震災福島第１原発事故から９年を過ぎ、2017 年から始まった帰還困難地域解除などの帰還は３割弱、避難者はピーク時に約１６万５千人だったが、現在も福島県内外に約 3 万9千人いる。福島県の子どもの甲状腺がんは２３０名を超え、放射能の影響を避けるための保養活動が求められている。

藤沢エコネットが協力する福島の子どもたちとともに・湘南の会が 2019 年７月保養支援を開催した。

★藤沢エコネットニュースが 2019 年５月に 300 号を迎え記念号を発行、多くの関係者に寄稿していただいた。創刊号からの合本制作を企画し作業を進めている。

（１）脱原発の活動

◆放射能測定　0.017μSv/h（遠藤の藤沢えびね・やまゆり園）～0.065（湘南台駅改札口）の範囲。

◆保養活動　「ふくしまっ子リフレッシュ IN 湘南」（２０１９/7/22～7/25）に協力。

（２）地球温暖化防止活動

◆６月 23 日総会学習会　「ストップ！異常気象・気候変動～国・地方の温暖化対策はどうすべきか！？」歌川学（産業技術総合研究所研究員）

◆温暖化対策連続学習会

・１２/7「気候非常事態を考えよう」外岡豊（埼玉大名誉教授）

・１/１８「COP25 について」宮地俊作

・2/23「気候非常事態を考えよう」小島政行(鎌倉非常事態宣言運動)

◆２月市長選挙アンケート。

ニュアンスは違うが、候補３人とも気候非常事態宣言、温暖化ガス削減中長期目標策定前向き。

◆国の第５次エネルギー基本計画（原発はベースロード電源 2030 年に 20～22%、自然エネルギー22～24%）を批判し、省エネ再生エネを学習。

（３）大気保全活動

◆藤沢の空気を考える会　年２回 NO2 簡易測定。ぜん息調べ。ぜん息学童平均１割超えた。NO2 夏平均 0.059ppm できれいとは言えない。

（4）環境影響問題

◆武田問題対策連絡会の活動に協力

（5）開発問題その他　◆村岡新駅建設問題

（6）環境情報交換活動

◆11/9　ふじさわ環境フェアーに参加。企画実行委員。地球温暖化問題、大気汚染、武田問題の展示。グレタ・トウンベリの動画を流し「いいね」のシール。

◆ニュース毎月発行 2019/4(299 号)～2020/3(310 号）約４４０部

◆HP ニュース掲載 http://econet2015.sakura.ne.jp/

◆WEB 会員　毎月カラー写真入りでニュース送付。

２０２０年度活動計画　(2020.4～2021.3)

２０１９年１２月から発生した新型コロナウイルス感染症によって、６月３日現在世界で約640 万人が感染し約38 万人の死者が出るという最近経験したことのないパンデミックに見舞われている。日本は約 17,700 人感染、920 人死亡と世界に比べ割合少ないが第２波 第３波が懸念される。藤沢市は県 HP によると 60 人感染、1 人死亡。PCR 検査体制をつくり、発熱外来を増やすなど努力している。これからは早急に適正な検査・医療体制の充実と薬・ワクチンの開発がされ、市民が高い衛生習慣を保ち収まっていくことを期待したい。コロナ後の世界の生活様式は変わると思われるが、資源や自然を大事にする世界、格差のない社会への変革が求められる。

地球温暖化防止はまったなしの課題である。2050 年温暖化ガス排出実質ゼロに向けて、藤沢市に気候危機非常事態宣言を若者とともに提案し、省エネルギー、再生可能エネルギーに関する学習会、提言活動に取り組む。

戦争は最大の環境破壊、人権破壊である。平和安全法制（戦争法）が 2015 年に成立後、政権は更に憲法を改正し、自衛隊を書き込もうとしている。平和憲法を守り、核兵器禁止条約の批准を求めていく。

原発は現在９機が稼働中（停止中４基）であり、首都圏にある 40 年を経た東海第２原発まで再稼働されようとしている。原発は処理不能の廃棄物を日々吐き出し、原発事故は回復不可能の環境汚染となる。原発に替わる再生エネルギーを提案し推し進めていく。

プラスチックごみが魚の内臓に発見されるなどプラスチックごみやマイクロプラスチックが世界の海を汚している。７月からのレジ袋有料化をきっかけに、プラスチックゼロ生活、さらに使い捨て文化の見直しを推し進めていく。

◆事務局会議：毎月１回　第１土曜日

◆ニュース発行：月１回印刷発送　WEB 会員に送付

◆ホームページ更新：毎月ニュース前月号までを掲載 環境情報発信

◆環境講座開催：夏「気候非常事態を考える」学習会 秋以降,自然観察.ごみ処理調査,新エネルギー見学

◆ふじさわ環境フェア参加：企画実行委員メンバーとして取り組む。展示参加。

◆共通する課題での活動

〇地球温暖化防止活動：省エネルギー、再生可能エネルギー、地産地消エネルギー推進

〇脱原発活動：原発ゼロをめざして学習し、原発再稼働の中止など求める。放射能の影響から子どもたちを守る活動や学習会に協力

〇平和問題：戦争は最大の環境破壊。平和憲法を守り核兵器禁止条約批准へ働きかける。

〇開発問題：大型開発から自然を守り谷戸や里山、海の自然を守る。村岡新駅は凍結を。

〇大気問題：年２回全国一斉大気測定（NO_2）ぜん息調査　学習会

〇環境影響問題：バイオハザード予防への見守り

〇ごみ問題：ごみ減量・リサイクル、有料化問題

〇その他：環境に関する政策提言　シンポジウム開催など

2019年度決算・2020年度予算

収入の部　　単位:円

科目	決算	備考	20年度予算
繰り越し	19,310		25,826
会費	150,000		140,000
寄付収入	29,000	寄付	35,000
事業収入	9,900	講座参加費	29,000
雑入	0		174
合計	**208,210**		230,000

支出の部

科目	決算	備考	20年度予算
講師謝礼	3,000	2回	30,000
会場費	3,400	会議室等	5,000
印刷費	26,285	印刷 コピー代	33,000
通信費	131,856	メール便ほか	145,000
消耗品	13,843	封筒 ラベル	14,000
雑費	4,000	広告ほか	3,000
次期繰越	25,826		0
合計	**208,210**		230,000

新型コロナ禍の現状

世界中が新型コロナ禍のなか、感染者は 6/29 現在約 **1000 万人**、死者はわかっているだけでも約 50 万を超えた。日本では約 19000 人、死者 985 人。藤沢市でも感染者は 64人 死者 1 人、これからも注意が必要となっている。藤沢でのＰＣＲ検査は 5/31 現在で **1234 件**実施した。

色んな議論もあったが外出自粛、感染予防に力を尽くした。特に感染者の介護や治療に当たった医療関係者には危険にさらされながらの従事に感謝にしたい。

新しいヨコ文字言葉も生まれた

- COVID-19　＝ 新型コロナウイルス感染症
- ＰＣＲ検査 ＝ 鼻咽頭の粘液を綿棒で擦り取り、DNA サンプルから特定領域を増幅させて、ウイルスの感染の有無が明らかにできる
- クラスター　＝ 小規模の感染集団
- オーバーシュート ＝ 爆発的患者急増
- パンデミック　＝ 世界的大流行
- ソーシャルディスタンス　＝ 社会的距離を保つ
- テレワーク ＝ テレ→離れた場所・ワーク→働く、といった言葉を合わせた言葉。

飲食店も休業で自粛の家庭での食事はプラごみを始め包装容器が増えて清掃従事者も大変なことだろう。

小売店やスーパーからマスク、体温計、消毒液などが無くなったが、今は回復された。毎日がテレビ等報道に惑わされ、小麦粉やカップ麺などまで売り切れとなったことはご存知だろうか。店は徐々に開いているが今もテイクアウトのお弁当が店頭に並んでいる。

最も関心の高いことは、感染者を入院させている病院等で従事者が感染し医療に支障をきたしたことだ。コロナの影響で病院や医療施設の経営が落ち込みをきたしているという。

いつ降りかかってくるか分からない恐怖に、ＰＣＲ検査を受けで安心することが重要と考えるが、日本ではまだまだ整っていない。検査を受けない方が感染者が少なくなり、医療崩壊を防げるとの考えだろう。保健所、病院を統廃合し、減らしてきたツケである。ＰＣＲ検査の徹底とワクチン開発、ウイルスに対する基礎研究を急がねばならないと思う。

やっとアベノマスクが一軒に 2 枚配られた。10 万円の特別定額給付金が届き始めた。数か月間収入が途絶えた事業者やフリーランスに対応の給付金は手続きが複雑でまだまだと聞く。自粛への保障を素早く対応してとの望む声が多い。第２波、３派に備えての対策も欠かせない。平常の勤務や活動、教育に戻ることを誰もが望んでいる。

放射能測定値(市民計測)

（HORIBA Radi）単位（μSv/ｈ）地上５０ｃｍ

６月 24 日晴	神台公園	0.046
６月 29 日晴	引地川親水公園	0.021
６月 29 日晴	石川丸山谷戸	0.022

ECONET　INFORMATION

▲気候危機からの脱出のためのシンポジウム in 藤沢

講師 江守 正多 氏(国立環境研究所)

７月 26 日（日）14:00～15:45

場所　藤沢商工会議所６階多目的ホール１

・参加費：１０００円（小・中・高学生１００円）

お申込み=エコストアパパラギまで

当日はマスクの着用を・入り口で手の消毒・風邪などの症状がある方は参加を 控えてください。

▲海の日特別イベント　サンセットクルーズ

７月２３日（木祝）16:00-19:00

申込み/問合せ詳細は

0466-50-0117 又は fujisawa@eco-papa.com

▲藤沢エコネットから

◆会員募集　年会費・購読料→２０００円

20 年度会費納入をよろしくお願いいたします

◆事務局会議７月４日（土）10:00～ネット会議

参加希望者は事務局までお申し出ください

《編集後記》海・環境を汚すプラスチックごみ削減のため７月からレジ袋が有料になった。様々なマイバッグが提案されている。ごみを減らし、使い捨て文化の見直しに繋がることを願う。コロナ禍の中、夏の平和行事は縮小して行われる。野外原爆展（8/6 辻堂駅、8/9サンパール広場 4-5 時）は初めてと言うが、大勢の通行人が直接見ることができるのは、良いのではと思う。8/15 辻堂駅コンコースの「不戦の誓い」行動 4-5 時も期待したい。(A)